

日本サッカーがアジアの頂点に立った。勝因の一つにザッケローに監督の采配に喝采が送られている。

監督の采配がいいとか悪いとかいう事の基準が普遍的に定め得られるものかどうか、これは難しい問題である。この基準は時により人により随分まちまちであってその中から何等かの方則といったようなものを抽(ぬ)き出すのは容易な事とは思われない。

しかし個人的には、たとえそれは自覚されないにしても、何かしら自ずから一定の基準をもっていて、それに当嵌(あては)めて采配の善し悪しを区別している事だけは否定し難い事実である。

それでもし各個人の基準を分析的に研究して、何等かの形でその要素といったようなものを抽出する事が出来れば、次には色々の個人の要素を総合して、帰納的にやや普遍的な方則を求める事が出来そうにも思われる。

監督というものの最も主要な要素の一つは試合に勝つことであるが、今回のアジア・カップのようなものでは、これは日本のアジアで占める位置から既にある結果(史上初 4 回目の優勝)に規定されている。勿論その結果が得られなくても、少なくとも韓国には絶対に負けたくないというような試合があり、それらに対する国民や選手の思いが強く、かなり複雑に日本人監督の采配を縛り付けていた。この要素は最も純粋な国民感情的な要素であって、これを克服するには勢い広く海外全体にわたって外人監督を探さなければならない、イタリア人ザッケローニ監督を招請するに当たり、ナショナル・チームの監督経験がないなどから容易に決まったようではなかった。

今回の結果、これがエキジビションとかであってみれば事柄はよほどちがって来るが、それでも一度(ひとたび)韓国相手となる際にはどうしても勝負の方の重みが勝つ。いわんや韓国やオーストラリアを破ってのカップ獲得となると監督の評価はよほど高くなると云っても差しつかえはない。

決勝トーナメントのテレビ中継は、時差の関係から深夜、未明だったため、翌日職場で居眠りをした人も多かっただろう。試合のたびに強くなる日本チームに、大勢の国民が喝采した。アジア杯を制したことで、2013年のコンフィデレーション杯への出場も獲得したが、本番は、2013年のブラジルW杯、日本代表選手たちには、更に成長した姿で、W杯でアジア王者の力を見せつけてほしい。



<参照> 寺田寅彦「歌の口調」